

# 施策の評価シート(令和4年度分)

1 計画における位置付け						
政策体系	総合計画	目標	04	心やすらぎ住みよいまちづくり		
	計画	基本政策	09	快適に暮らせる都市空間の形成	管理コード	040928
		施策	28	都市機能の整備	本冊ページ	76
	関連個別計画	津市都市マスタープラン、津市教育振興ビジョン前期基本計画				
担当部局		政策財務部、商工観光部、農林水産部、都市計画部、建設部、教育委員会				
施策の内容(番号)		090 ~ 093				

2 「施策の内容」の総合評価と今後の方向性				
番号	施策の内容	「施策の内容」の総合評価		担当課
		選択区分	今後の方向性 選択区分	
090	交通利便性が高い津インターチェンジ周辺地区については、各種法令等による土地利用規制があることから、無秩序な開発の抑制に努めつつ、地域の実情に応じた土地利用が可能となるよう、規制緩和と抜本的な法令改正を国・県へ要望します。	B	①	都市政策課
091	都市的サービス、自然や歴史・文化を実感することができる機能及び本市の求心力を高めることができる機能を有した都市的な拠点を配置するほか、住民生活や地域コミュニティの中心となる地域的な拠点等を配置することにより、持続可能な都市を形成します。	A	①	商業振興労政課/津駅前北部土地区画整理事務所/建設整備課/図書館
092	都心活動の南北軸となる国道23号を中心とする地域を都心活動軸として位置付け、都心活動軸においては、都市機能の誘導に努めます。	B	①	都市政策課
093	交流拠点である津インターチェンジ周辺及び津なぎさまち周辺から、都市拠点である津新町駅、大門・丸之内内周辺地区へ誘導する都市計画道路津港跡部線を、新都心軸として位置付け、2つの交流拠点と本市中心部である都市拠点との交流機能の充実に努めます。	A	①	都市政策課

※「施策の内容」の総合評価…A=80点以上、B=60点以上80点未満、C=40点以上60点未満、D=20点以上40点未満、E=20点未満  
 ※今後の方向性…①=効果的な事業構成であるため、方向性を維持、②=概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある、③=あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい、④=事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要

3 「施策」の総合評価			
「施策の内容」の総合評価を根拠とした「施策」の総合評価	区分	選択区分	総評(施策の進捗状況や効果等を端的に記載)
		A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

※総合評価は、「施策の内容」の総合評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	B	B	B	A					

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

# 施策の内容評価シート(令和4年度分)

## 1 計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり		
		基本政策	09	快適に暮らせる都市空間の形成	管理コード	040928090
		施策	28	都市機能の整備	本冊ページ	76
	関連個別計画	津市都市マスタープラン(平成30年度～令和9年度)				
担当部局	政策財務部、農林水産部、都市計画部					
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果	090	交通利便性が高い津インターチェンジ周辺地区については、各種法令等による土地利用規制があることから、無秩序な開発の抑制に努めつつ、地域の実情に応じた土地利用が可能となるよう、規制緩和と抜本的な法令改正を国・県へ要望します。				

## 2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	○ 実施評価	
	担当課		何	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	○ 事業評価	
			何	何のための事業か	決算額 (千円)	今後の方向性	
090-1	津インターチェンジ周辺における土地利用の検討 都市政策課	津インターチェンジ周辺の土地利用について法令改正及び規制緩和を国や県に要望	効	津インターチェンジ周辺の交流機能の充実に資する新たな土地利用が図られる	◆ 県政要望の実施	○	県政要望においては、今後も本市との連携のもと、適切な対応を行っていくとの回答がされていることから、「○」とした。今後も新たな土地利用の実現に向けて検討していく。
			誰	市内外の人々	◇ 要望実施状況	○	
			何	圏域内外との交流及び新たな土地利用による活力の向上	0 (千円)	現状維持	
090-2			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
090-3			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
090-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
090-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		

# 施策の内容評価シート(令和4年度分)

090-6	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
090-7	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
090-8	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
090-9	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
090-10	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	<b>B</b>
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	<b>①</b>
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	<b>B</b>	<b>B</b>	<b>B</b>	<b>B</b>	<b>B</b>					
今後の方向性	<b>①</b>	<b>①</b>	<b>①</b>	<b>①</b>	<b>①</b>					

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

# 施策の内容評価シート(令和4年度分)

1 計画における位置付け					
政策体系	総合計画	目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり	
		基本政策	09	快適に暮らせる都市空間の形成	管理コード 040928091
		施策	28	都市機能の整備	本冊ページ 76
	関連個別計画	津市教育振興ビジョン前期基本計画(平成30年度～令和4年度)			
	担当部局	商工観光部、都市計画部、建設部、教育委員会			
	施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果	091	都市的サービス、自然や歴史・文化を実感することができる機能及び本市の求心力を高めることができる機能を有した都市的な拠点を配置するほか、住民生活や地域コミュニティの中心となる地域的な拠点等を配置することにより、持続可能な都市を形成します。		

## 2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	○ 実施評価	
	担当課		何	誰	◇ 事業評価の主な視点	○ 事業評価	
			何	誰	決算額 (千円)	○ 今後の方向性	
091-1	駐車場管理運営事業	アスト、フェニックス通り、お城東、ポルタひさい、久居駅東口駐車場の管理・運営	効	市街地の駐車場需要に対応するため市営駐車場を運営する	◆ 市営駐車場の健全運営	○	本事業において、前年度と比べ、利用台数は増加し、収益も上昇した。今後も、継続した事業を展開し、市街地の駐車場需要に応じていく。
	誰		市内外の自動車利用者	◇ 営業収支比率等経営指標	○		
	何		駐車需要を充足する	166,857 (千円)	○ 現状維持		
091-2	津駅前北部土地区画整理事業	1件の物件移転交渉、換地処分準備の実施	効	幅員の狭い道路の整備や密集市街地を解消することで、道路の利便性、安全性が向上すると共に、健全な市街地が形成される	◆ 公共施設整備(都市計画道路4路線、公園2箇所ほか)及び宅地造成	◎	事業当初に計画した公共施設整備及び宅地造成がほぼ完了したため「◎」とした。地域住民を対象に行ったまちづくりに対するアンケートで、まち全体の評価について住民の8割が満足、概ね満足しているという結果であったため「◎」とした。引き続き交通安全全面等に優れたまちづくりの推進に取り組む。
	誰		地域住民のため	◇ 地域住民のまちづくりに対する満足度	◎		
	何		防災面や交通安全面に優れたまちづくりの推進	7,873 (千円)	○ 現状維持		
091-3	上浜町大谷町第1号線外1路線道路改良事業	大谷踏切の拡幅及び近鉄架道橋拡幅工事	効	狭い踏切道及び前後の道路や架道橋の拡幅により、安心・安全な移動空間を確保できる	◆ 令和6年度の完成	○	令和3年度から近鉄と協定を締結し、踏切西側の架道橋工事に着手し引き続き工事を行った。令和6年度の完成を目指し整備を進めていく。
	誰		道路利用者	◇ 事業の進捗率	△		
	何		歩行者と自動車の錯綜による事故リスクや交通渋滞を低減することができる	584,442 (千円)	○ 現状維持		
091-4	久居ふるさと文学館駐車場整備事業	久居ふるさと文学館の来館者用駐車場の増設の実施設計、用地購入等	効	来館者の利便性が向上する	◆ 駐車場整備工事	◎	計画していた工期内に整備工事が完了したため「◎」とした。令和5年1月5日から利用者へ供用開始している。
	誰		久居ふるさと文学館及び近隣公共施設の利用者	◇ 駐車場の利用者数	◎		
	何		来館しやすくなる	26,219 (千円)	完了		
091-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		

# 施策の内容評価シート(令和4年度分)

091-6			効	◆		
			誰	◇		
			何	(千円)		
091-7			効	◆		
			誰	◇		
			何	(千円)		
091-8			効	◆		
			誰	◇		
			何	(千円)		
091-9			効	◆		
			誰	◇		
			何	(千円)		
091-10			効	◆		
			誰	◇		
			何	(千円)		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)  
 ※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない  
 ※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	A
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	①
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。  
 ※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	B	C	A					
今後の方向性	①	①	②	②	①					

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

# 施策の内容評価シート(令和4年度分)

## 1 計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり		
		基本政策	09	快適に暮らせる都市空間の形成	管理コード	040928092
		施策	28	都市機能の整備	本冊ページ	76
	関連個別計画	津市都市マスタープラン(平成30年度～令和9年度)				
担当部局		都市計画部				
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		092	都心活動の南北軸となる国道23号を中心とする地域を都心活動軸として位置付け、都心活動軸においては、都市機能の誘導に努めます。			

## 2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)	
			効	誰	◆	◇		
担当課			何	何のための事業か	決算額 (千円)	今後の方向性		
092-1	市街地再開発事業	津駅前北部地区第一種市街地再開発事業の推進	効	土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の集積・更新が図られる	◆	主となる地権者への動向把握	○	地権者への動向把握においては、現時点では事業化への機運が高まっていない状況にあるが、今後も都市機能の集積及び活力の向上が図られるよう、事業化促進の取組を続ける。
			誰	市内外の人々	◇	事業実施に向けた地権者の機運の高まり	△	
	都市政策課	何	居住・来訪したくなる多様で高次な都市機能の集積による活力の向上	89 (千円)	現状維持			
092-2			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			
092-3			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			
092-4			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			
092-5			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			

# 施策の内容評価シート(令和4年度分)

092-6	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
092-7	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
092-8	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
092-9	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
092-10	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)  
 ※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない  
 ※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	<b>B</b>
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	<b>①</b>
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。  
 ※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	B	B	B	B					
今後の方向性	①	①	①	①	①					

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

# 施策の内容評価シート(令和4年度分)

## 1 計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり		
		基本政策	09	快適に暮らせる都市空間の形成	管理コード	040928093
		施策	28	都市機能の整備	本冊ページ	76
	関連個別計画					
担当部局		都市計画部				
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		093	交流拠点である津インターチェンジ周辺及び津なぎさまち周辺から、都市拠点である津新町駅、大門・丸之内周辺地区へ誘導する都市計画道路津港跡部線を、新都心軸として位置付け、2つの交流拠点と本市中心部である都市拠点との交流機能の充実に努めます。			

## 2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	◎ 実施評価	
	担当課		何	誰	◇ 事業評価の主な視点	◎ 事業評価	
			何	誰	決算額 (千円)	◎ 今後の方向性	
093-1	レッツ津！夢みなどプラン推進事業	津なぎさまち周辺において、海上アクセス拠点・みなとオアシスとしてふさわしい賑わいと交流を生み出すみなとまちづくりに係る調査・研究等の取組	効	「レッツ津！夢みなどプラン」に基づく港湾整備が実現する	◆ 啓発事業1回開催	◎	当初計画していた、啓発事業「海の月間」パネル展示を行ったため「◎」とした。今後も、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、魅力の向上及び交流の促進につながる取組を通じ、将来的な港湾整備の実現に向けて取り組む。
	誰		市内外の人々	◇ 来場状況	◎		
	何		津なぎさまちの魅力向上による交流の促進	0 (千円)	◎ 現状維持		
093-2	都市拠点再生推進事業	大門・丸之内地区の新たな都市づくりに向けた将来像を描くための未来ビジョンづくり及び未来ビジョンの実現に向けた取組	効	官民が連携して策定した未来ビジョンに基づく都市づくりにより交流機能の充実が図られる	◆ 未来ビジョンの策定及び官民連携組織の構築	◎	官民連携組織であるエリアプラットフォーム「大門・丸之内未来のまちづくり」が構築され、同エリアプラットフォームで、地区の将来像となる未来ビジョンが策定されたため、「◎」とした。今後もエリア内の多様な関係者と連携し、未来ビジョンに基づく取組を進める。
	誰		市内外の人々	◇ 地区の将来像の共有及び関係者の取組連携	◎		
	何		大門・丸之内地区の将来像を描くことによる当該地区の魅力と活力の向上	6,156 (千円)	◎ 拡充・充実		
093-3			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
093-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
093-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		



# 施策の内容評価シート(令和4年度分)

093-6	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
093-7	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
093-8	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
093-9	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		
093-10	効	◆	(千円)
	誰	◇	
	何		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	A
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	①
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	B	B	A					
今後の方向性	①	①	①	①	①					

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

